

どんな環境でアサリはたくさん卵を産むのか？

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長谷川, 夏樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009809

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



研究情報

どんな環境でアサリはたくさん卵を産むのか？

日本各地で昔にくらべてアサリが減っています。アサリ資源を回復するために“母貝場（ぼがいば）”を守り、また、失われた母貝場を再生する研究を始めました。

（資源培養研究室 長谷川 夏樹）



アサリは、昔から日本人にとってもっとも身近な海産物の一つですが、埋め立てなどによる生息地の減少や、獲りすぎ、病気や外敵生物の影響などで国内の漁獲量は低迷しています。アサリは、干潟など浅場の砂泥の中で生活していますが、幼生と呼ばれる赤ちゃん（写真1、2）の時は数週間にわたり水中をただよう“プランクトン”として生活します。このため、多くの幼生は海の流れによって遠く離れた別の場所に流れ着き、そこで砂泥に潜っての生活を始めます。このような特徴から、

アサリ資源の回復には、幼生が行き来する複数の生息地をセットにした取り組みが必要であるとされています。また、さまざまな場所に多くの幼生を供給する親貝の生息地“母貝場”の重要性とその減少が指摘されています。そこで、どのような環境でアサリはたくさんの卵を産むのかを明らかにし、たくさん卵を産める環境を守り、また、失われた母貝場を再び整備する技術の開発を目指して、平成22年度より全国規模で水産庁の水産基盤整備調査委託事業が開始されました。

北海道のアサリ漁獲量は、年間1,500トンほどで全国の漁獲量の数%にすぎませんが、多くの生産地で漁獲量が減少するなかでも安定した漁獲が行われ注目されている地域です。また、本州や九州のアサリは春から秋にかけて年2回の産卵期がありますが、北海道のアサリの産卵期は夏の1回のみとされています。年2回の産卵期があると調査結果の解釈が難しくなりますが、年1回をみの北海道のアサリは産卵量に影響を与える環境条件を探るのに好都合です。そこで、北水研もこの事業に参画し、北海道のアサリの主産地である厚岸湖で調査研究を行っています。

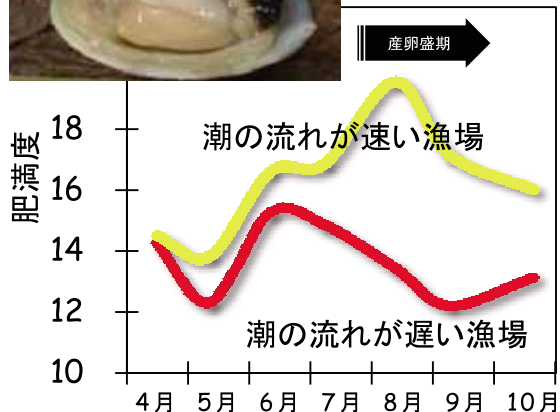


写真1. アサリのトロコフォア幼生



写真2. アサリのD型幼生

生まれたばかりのアサリの赤ちゃんは貝殻をもっていませんが（写真1）、2日後には薄い貝殻が形成されます（写真2）。アサリ幼生はせん毛（矢印）を使って少しでも泳ぐことができ、数週間にわたって“プランクトン”として生活します。

本年度の調査で、厚岸湖のアサリ漁場の中でも場所によって潮の流れの速さが大きく異なり、流れが速い漁場ではアサリの成長、栄養状態や成熟の指標となる肥満度が良好であることがわかりました（図1）。肥満度が高ければたくさんの卵を産むと考えられます。今後、成長や栄養状態が十分ではなかった場所でこれらを向上させ、母貝場としての機能を高める技術も検討する予定です。このような研究を通じ、北海道のアサリ漁業の振興に寄与するとともに、北の海での知見を国内の他の生産地のアサリ資源の回復に役立てていきたいと考えています。

図1. 厚岸湖のアサリ肥満度の季節変化 (左)

“肥満度”は、身の重さを殻の大きさ（容積）で割って計算し、栄養状態が良かったり、成熟が進むと値が高くなります。厚岸湖では、潮の流れが速い漁場で、産卵盛期にとても高くなりました。